



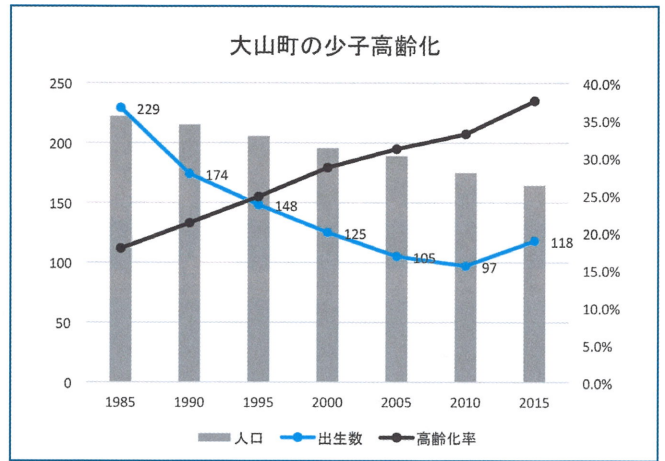
少子人口減と 高齢化対策を考える

竹口町長は、人口減少を止めることを重要課題として捉え、様々な施策に取り組んでいます。

今回は、少子化による人口減少の問題と、高齢化が進む現状、それに伴う様々な問題について討論しました。

【大森】出生数減少の理由として、子育てや教育に費用がかかりすぎる現状がある。
子育ての負担軽減は、本来、国がすべきことだと思うが、竹口町政による子育て支援策、保育料の無償化、給食費の半額補助など、人口減に歯止めをかける効

人口減に 歯止めはかかるか



【西尾】県内の求人倍率が1:9倍になった。これから労働力不足が始まり、その結果、賃金上がり、将来設計がたてやすくなり、子育てしやすい環境がそろって行くと期待している。

【西山】子どもの最善の利益を考慮した社会的要保護の充実が必要だ。日本はこの制度が世界的に大きく見劣りすると言われている。地方財政の充実が喫緊の課題である。

【野口俊】少子化は結婚問題だと思ふ。若いうちに結婚すれば子供も増えてくる。
結婚して町内に住む若者の住民税を5年間半額にするとか、固定資産税や健康保険税、上下水道料金を安くしたら、近隣都市におられる人が町に帰って来ると思ふ。

【門脇】女性が子供を欲しいと思わなくなった。一番効果がある

【森本】超高齢化対策と少子減少対策は共通することがある。元気な高齢者は多く、三世同居であれば、働きながらも子育てしやすい。そういうモデルを増やす施策をしていくべき。

魅力あるまちづくりは
【岡田】子育て家庭の負担を少しでも減らすため、町単独で、子どものいる世帯の減税とか、父母の世帯と同居すれば減税するとか、思い切った施策も必要だ。
のは、結婚する人を増やすこと。出産の奨励より9倍の効果があるという。そういう取り組みをしたいと思ふ。

【池田】少子化にはいろんな面からのサポートが必要。

不妊治療の補助制度があるが、病院の待合室に補助金の案内が置いてない。他の市町村は置いている。

デリケートな問題だからこそ、一歩前に出てサポートする姿勢が大切だ。

【大杖】地方の人口減少の原因は、中央省庁の東京一極集中にある。平成2年に、衆参両院で首都移転が決議されたが、まったく進んでいない。

国の仕組みが変わらない限り、若者は仕事と豊かな生活を求めて都市部へ出ていってしまう。

【吉原】農業女子とか地域おこし協力隊など、田舎の良さを見つけて移住する若者もある。

人とのふれあいを大切に、魅力あるまちづくりを進めることが遠回りでも人口減に歯止めをかける対策と思う。

高齢化対策は

【大原】一人でも多く生む「多子化」の政策が足りない。多子化を促進するため、改築費用の助成や、三世代同居の支援が必要。

集落や校区内で、地域に子どもを増やそうという意識を持ってもらう施策も必要だ。

【野口昌】一番の問題は、結婚問題だ。仲人というか、結婚の世話人をしてくださる人を、各集落に一名ずつでも町が委嘱して、活動していただくような取り組みを考えたい。

【近藤】少子化、高齢化の問題は、町にとって切実な問題だ。新たに特別委員会を作り、議論を深め、議会として政策提言をしていくことが必要ではないか。

【米本】少子化対策より高齢化対策に重点を置いてほしい。デマンドバスの充実など、高齢者が大山町に住んで本当に良かった

など感じてもらえる政策に力を入れるべき。

こんな意見も

【加藤】高齢者や弱者が住みやすい町は、若い世代にとっても魅力的な町だと思う。

【西尾】東京一極集中の批判があったが、高校を郡部に分散化することは県でもできる。

【門脇】未婚の子供さんを持つ、親の交流の場があってもいい。その中で色々な出会いがおきる。また、結婚の世話役の仕事は、高齢者の生きがいになると考える。

【米本】高齢者に喜んでもらうため、町内の温泉に招待したい。

【池田】SNSの活用も重要と思う。大山町の良さを町外の人に知ってもらうことで、移住者も増えると思う。

討論を終えて

30年前と比較して、子どもは半分は減り、高齢者の割合は2倍に増えています。

少子化に歯止めをかけることも、人口減少を踏まえたまちづくりを進めることもどちらも大事な施策です。

どのように予算を配分していくか、将来を見据えた議論がまだまだ必要です。町民のみなさんのご意見も、議会事務局までお寄せ下さい。



私たちは、自由討議を大切にしています